

# ふるさと奥尻通信

平成29年12月29日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

『古事記』によると、宗像三女神のうち、二番目の中津宮が市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)とされ、神仏習合によっていわゆる弁財天、弁天様と同一視されるようになった。

## 特集 町指定有形文化財「宮津弁天宮」の変遷

島内でも風光明媚な景観をもつ宮津弁天宮。平成11年に町の有形文化財に指定されましたが、その指定理由は建物のみならず、立地する弁天岬がオホーツク文化期とアイヌ文化期の遺跡であること。また、アイヌのチャシが存在したとされることから、島内最古の祭祀の場であること。また、その後江戸後期に漁民が大漁祈願で祀った社が源流となる中津島神社(弁天社とも)が建っていることを含め、奥尻島の地域史において重要であることが挙げられます。

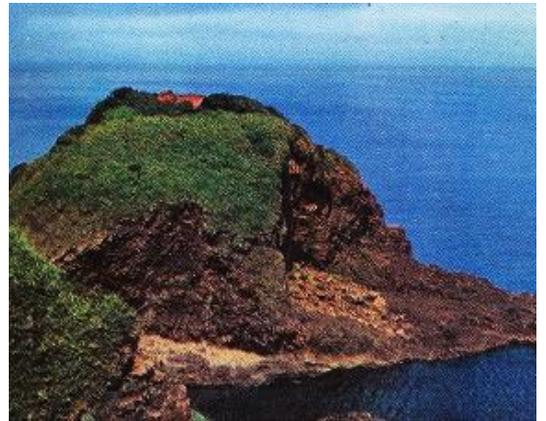
建築面では、最初期の様相は不明ですが、大正5年(1916)時点の建物は、本殿1間四面、拝殿3間四面。他に木製鳥居3基。改築後の同14年(1925)時点の建築は、本殿が4尺四面権現流造升組。拝殿が熊野造まがい、桁葎きの上にトタン葺き、梁間3間、桁間4間でした。他に神明造木製鳥居2基。”まがい”とは、熊野造(熊野権現造)に似せて作ったことだと思われ、熊野造の特徴は入母屋造、勾欄(回廊の手すり)、高床となっていますが、14年時点では回廊はありませんでした。境内には松、杉、ケヤキ、イタヤなどの樹木が生えていました。



整備中の港と新築の弁天宮 昭和50年頃



扁額 奉納上笠賢



改築前の弁天宮(屋根が低い) 昭和40年頃

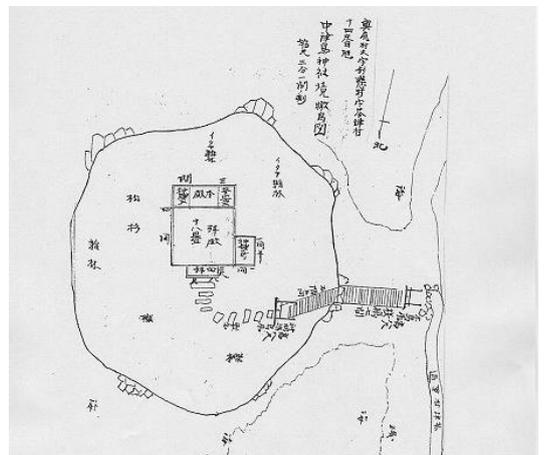


社殿新築中の弁天宮 昭和45年

現在の社殿は昭和45年に澤田組(澤田三男)によって建てられたもので、木造、拝殿熊野造、本殿流造、3×4間の規模です。工期は4月21日～11月14日を要し、途中部材の加工に手間がかかることなどから、工期の延長を申請、認められています。総工費は350万円でした。これにより拝殿が大きくなり、紺碧の奥尻海峡に朱色の屋根が映える佇まいとなりました。

宮津漁港から登る道が本来の参道であり、昭和40年代までは道道側から昇り降りする階段は造られていませんでした。その後全国的な離島観光ブームの到来と、町が島内観光施設の環境整備を進めたこともあって、島内でも有数の観光地となりました。境内には望遠鏡も設置されるなどして雄大な景色を楽しむ事ができました(現在はなし)。現在では、道道側からも階段が付き、V字型に昇り降りできる格好となっています。いずれも急な勾配で、冬期間は危険な参拝となりますのでご注意ください。その後、地元町内会で小規模な改修や修繕が行われたと思われませんが、はっきりした資料は残っていません。そして、昭和62年に山沿いに迂回していた道路の改良にもなって宮津大橋が建設され、さらに道道横に駐車場公園が整備されて、駐車スペースとトイレ、あずまやなどが造られました。

平成5年の地震津波を経て、同11年には経年劣化で傷んでいた屋根を葺き替える大改修を施すこととなり、これに先立って町の有形文化財に指定されました。工事は屋根の飾りも新調するような大規模なもので、総工費約1,300万円をかけて、同じく澤田組が施工しました。文化財指定後は町の補助金が充用できることとなり、経年劣化による小規模な修繕を繰り返して現在に至ります。



中津島神社境内見取図 大正14年



道道側に階段が無かった頃 昭和42年



道道奥尻島線の整備として、待望の宮津大橋が完成し、皆で最初の一歩を記しているところです。くす玉が割られ、おそらく神主を先頭に、来賓、関係者、町民一行が奥尻方面から稲穂方面へ渡っています。橋脚建設予定地には家々がありましたので、隣の東風泊集落へ移転する家も多かったです。結果的に宮津集落が縮小することになり、宮津郵便局だけは残りましたが、その後平成26年に廃止となり、簡易局が球浦地区に新設されています。冬期間、路面が凍結してスリップする危険がありますので、通行の際はご注意ください。



学芸員オス  
スメの一冊を  
ご紹介しま  
す。本は海洋  
研修センター  
図書室で借り  
られます。

昭和史1926-1945  
半藤一利

昭和が終わって早29年が経ちました。平成の世も終いが見えてきたところで、「激動」と形容される昭和の歴史について概観するべきでしょう。日本近現代史を得意とする著者が、昭和生まれでも昭和の歴史を習ってこなかったような世代、平成生まれの世代に語りかける形式。昭和史を知らずして、現在日本の姿を語ることはできないはずです。

月刊 奥尻のつり 12月号

いよいよ勝負の12月となりました。ヤリイカの回遊が少しありまして、宮津弁天宮のおひぎ元では賑わいが見られました。そんな中、エサ釣りの大物狙いの釣り人も粘り強く姿を見せ、冬の荒い磯波の飛沫を浴びながらも、40cm台クロゾイやマゾイの良型を釣り上げていました。24日、天候が崩れる中、波の治まりの間隙を突いて西海岸の屏風立岩まで長駆した一団がありました。釣果を聞くと、40cm台のクロゾイの他、58cmのカジカが釣れたとのことで、虎穴に入らざれば虎子を得ずの諺通りの結果だったようです。年が明けるとサクラマスの回遊が始まると思いますので、春まではアングラの活躍が見られることでしょう。エサ釣りの連中は、リールと竿のメンテナンスに入り一息、といったところでしょうか。最後までご安全に。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第29回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

つ づ く  
たつた木もがてる地も波をれけるそてた人  
け。さ来あし様球今余見るたかうい。で赤  
だ俺んてるまだ島でり乍らんらだる海ウ石  
方船のい。っ。とはならだ大、。を。口崎  
だは船た茶た霧見大い暫。変間き 見、の  
。鈴二。津。はて分のく有と違っ た其、所  
木三俺に久も行薄で立難思っ と り處に  
さ十も入遠うっれグっいって此、等来た  
ん釣安っかすたてんでてもて此処、岩を歩  
のけ心たらっが行、見の見の先崎 見い大  
船てしらもか皆っ追てだて先崎 見い大  
よ来た皆帰り来たむい：いに出 たて人  
りて。のるはて。た俺て打 て りい  
もい鈴船船れい谷霧。船く付い し 一

こ雪場すにてうて暖や寒よ  
とがの。はい。しのつり今  
を順整月気か急ま差てと降冬  
願調備のをななつがく暖雪は  
いにも後付い寒た大る気が雪  
ま積始半けのさ人きもがあ  
すもまかたでにもすの入っ  
。つりらい、は多ぎだれたく  
てまはも体体いてか替も  
くしスの調もで、らわの十  
れてキで管つし参、りの一  
る、！ 理いよっ寒で、月

夜空を見上げて



サビキ釣りで簡単に

尻て期でとし元賑き年にのに西  
できのきかた々わてにはがハ海十  
はた不るら個はつ、も平確タ岸二  
珍証漁庶、体秋た一奥成認ハ、月  
事扱か民安が田実週尻二さ夕神十九  
ででらの価大の績間に十れの威九日  
しし資魚に量県がほ群五ま群脇日  
たよ源で買に魚あどれ年しれ漁こ  
。うがすう獲でり釣が、たが港、  
か回。これ、まりや同。入の  
。復一とる抱す人つ十過っ港島  
奥し時がこ卵。でて丸去た内の

ハタハタフィバー

えのの着後降かもかり算で  
るででい続雪な重：のの、師  
年は、たかがいなさ片締忙走  
で？穩予ず早年りら付めしとは  
はもや報、か末心にけ切いは  
なはかと年つと身島とり毎よく  
いやなな明たなと内か、と日  
のお正つけ割りもで、か、言  
が年月てまにまには大、した  
残玉にいではし落お掃身したも  
念。をなま落そた。ち悔除の。も  
貫るすちの。着みと回予の

新糸之記録 (編集後記)

す人すネ張イ知ろ匹雪すいの  
が家！ズフト。釣が。た真十二  
、に今ミてのバ暗り残と人下  
ま下年が逃先ツ闇、るいのがの  
さりはいげにとで満岩う大岩下  
かてエたよは振動足場の変場、  
海きサとうマリく顔でも、驚  
辺てがいとゾ向気でマ、い釣宮  
にい不うすいく配いゾ氷たり津  
とる足のるをとをたイ点そを、  
はのしでク引、察とを、下う  
。でマつラ こ数、でて宮

釣り場でピクニック！



来島記念スタンプ③